

大雪山国立公園連絡協議会

東大雪地域登山道維持管理部会（第2回）

日時：令和3年6月22日(火) 13:00～16:00

場所：上士幌町生涯学習センター わっか

次 第

1. 開会

2. 議事

（1）登山道荒廃等の課題解決に向けて

3. 報告事項

（1）令和3年度大雪山国立公園連絡協議会総会及び登山道維持管理部会の
取組事項について

（2）新型コロナウイルスへの対応を含む各団体の活動予定について

4. その他

5. 閉会

【配布資料】

資料 1 登山道荒廃等の課題解決に向けた協議について

資料 2 - 1 大雪山国立公園連絡協議会及び部会の取組について

- 2 - 1 - 1 大雪山国立公園の管理有効性評価の調査について
- 2 - 1 - 2 令和 3 年度登山道維持管理作業実施手順マニュアル案
- 2 - 1 - 3 登山道維持管理データベース
- 2 - 1 - 4 様式第 1_パートナー登録申請書
- 2 - 1 - 5 携帯トイレ仕入れ案内文（令和 3 年度版）
- 2 - 1 - 6 大雪山国立公園のトイレの現状
- 2 - 1 - 7 携帯トイレ普及目標設定、効果検証手法の検討

資料 2 - 2 各構成員等からの資料

- 2 - 2 - 1 環境省大雪山国立公園管理事務所・東川・上士幌管理官事務所
- 2 - 2 - 2 十勝総合振興局
- 2 - 2 - 3 鹿追町ジオパーク推進課
- 2 - 2 - 4 北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡邊悌二教授
- 2 - 2 - 5 北海道大学大学院農学研究院 愛甲哲也准教授
- 2 - 2 - 6 公益社団法人日本山岳会北海道支部

令和3年6月22日

大雪山国立公園連絡協議会 東大雪地域登山道維持管理部会（第2回）
出席者名簿

会場出席 8団体／10名 ウェブ出席9団体／14名 欠席2団体

【構成員】

分野	名称	出席者（敬称略）	備考
関係行政機関	十勝西部森林管理署東大雪支署	事務管理官 前畑 慎一	
	北海道十勝総合振興局	環境生活課 主事 村上 桐生	ウェブ出席
	士幌町	産業振興課 主事 田中 宏治	ウェブ出席
	上士幌町	商工観光課 自然館担当 主幹 吉永 雅一	
	鹿追町	商工観光課 主事 白石 隆任 ジオパーク推進課 主査 大西 潤	
	新得町	産業課 係長 乙井 逸人 産業課 主事 奈須 翔樹	ウェブ出席 ウェブ出席
維持管理 関係団体 利用・環境 教育関係団体	NPO 法人 ひがし大雪自然ガイドセンター	代表 河田 充	
	合同会社北海道山岳整備／一般社団 法人大雪山・山守隊	代表 岡崎 哲三 下條 典子	ウェブ出席 ウェブ出席
	山樂舎 BEAR	代表 佐久間 弘	ウェブ出席
	新得山岳会	会長 小西 則幸	
	大雪山国立公園パークボランティア 連絡会	会長 黒田 忠	ウェブ出席
	十勝山岳連盟	会長 齊藤 邦明 理事長 荒堀 英雄	
調査・研究 関係	北海道大学大学院 地球環境科学研究院	教授 渡辺 悌二	ウェブ出席
	北海道大学大学院 農学研究院	准教授 愛甲 哲也 農学院修士2年 閻 安 農学院修士1年 陳 絵 農学院修士1年 中村 大	ウェブ出席 ウェブ出席 ウェブ出席 ウェブ出席

【オブザーバー】

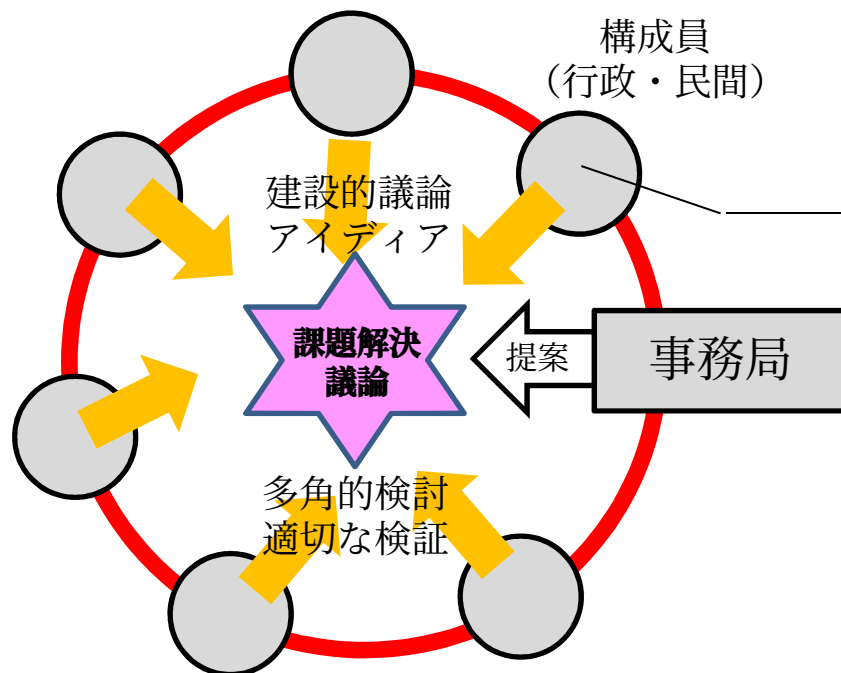
分野	名称	出席者（敬称略）	備考
維持管理 関係団体	株式会社北海道ネイチャーセンター	然別湖ネイチャーセンター チーフマネージャー 石川昇司	
	公益社団法人日本山岳会北海道支部	支部長 藤木 俊三	
利用・環境 教育関係団体	しほろ環境に親しむ会	士幌町役場総務企画課 主事 造田 葵	欠席
	北海道山岳ガイド協会（東大雪地区）	小早川 達也	欠席
	ボレアルフォレスト	阿久澤 小夜里	ウェブ出席

【事務局】

所属	出席者		備考
環境省 大雪山国立公園管理事務所	所長	広野 行男	
	国立公園保護管理企画官	畠山 直樹	
	国立公園利用企画官	佐藤 巧	
	係員	松野 壮太	
	自然保護官補佐	忠鉢 伸一	
	自然保護官補佐	入江 瑞生	
上士幌管理官事務所	国立公園管理官	齋藤 佑介	
	自然保護官補佐	上村 哲也	

<経過等>

- 2020年6月 「大雪山国立公園連絡協議会」（総合型協議会）設立
- 2020年12月 「表大雪地域登山道維持管理部会」、「東大雪地域登山道維持管理部会」発足
第1回部会を開催
 - ・・・登山道荒廃の課題解決に関する協議の場としてスタート
 - ・・・歩道事業の未執行区間解消に向けた共通認識
- 2021年6月 第2回部会【本日】
 - ・・・構成員が登山道等の課題を情報共有し、解決の必要性について共通認識
 - ・・・具体的な意見やアイデアを出し合い、解決方法を協議



○課題解決が目的

- ・構成員が地域内すべての登山道について、課題を認識し、解決方法を考える。
- ・事務局による課題解決に向けた取組については、その内容の検討、検証。

○構成員の役割

- ・大雪山国立公園全体の課題を理解
- ・責任感をもって、主体的に議論に参画
- ・登山道の荒廃等の困難な課題に対して、解決に向けた具体的なアイデアを出し、建設的に議論。

＜論点＞

東大雪部会は、表大雪部会とともに、昨年度、大雪山国立公園連絡協議会の常設部会として設置された。その目的として、部会規約第2条において「大雪山国立公園内の登山道の荒廃等の課題及びその対策について関係者で協議し、もって登山道の適正な維持管理に資すること」が位置づけられている。

また、当該目的を達成していくため、同第3条において、目的を達成するために各部会が行う事業として、以下が挙げられている。

- (1) 登山道の整備及び維持管理並びにそれらに関連する登山道の利用や登山道周辺の自然環境等に関する情報交換、連絡調整
- (2) 登山道の荒廃等の課題及びその対策に必要な事業
- (3) その他、前条の目的を達成するために必要な事業

本日の会議では、上記(1)につき、各構成員等の取組等の情報交換を行うとともに、(2)につき、以下の各点について協議したい。また、(3)として取り扱うべき項目があれば、ご提案いただきたい。

- 東大雪では「大雪山国立公園登山道管理水準 2015年改訂版」における保全対策ランクが比較的低い登山道が多い中、何を、どのような観点から、東大雪部会での優先的な検討課題とするか。
- 各登山道の課題を検討する際には、関係者が当該登山道に関して一定の共通認識を持つことが重要との認識のもと、一つのツールとして、別紙「登山道荒廃等の課題事例」を「糠平ウペペサンケ山線」を例に作成した。今後東大雪部会での議論を深めるにあたり、このようなツールを採用することについて、どのように考えるか。仮に、これを採用する場合、現状整理や、望まれる状況の整理について、欠けている視点や考え方はないか。また、誰がこのようなツールを作成するか。
- より細かな、現場レベルの話となる場合、個別相談・調整の場を作ることとしてはどうか。
- 課題を検討するに際し、現在の東大雪部会の構成員・オブザーバーに欠けている団体・個人等はないか。また、構成員やオブザーバーの加除には部会規約別表の改訂が必要となるが、追加する場合の東大雪部会での合意形成について、その必要性も含めてどのように考えるか。

別紙 「登山道荒廃等の課題事例」(1/2)

歩道名：糠平ウペペサンケ山線歩道（距離 約6.5km（＋林道4.8km））

登山道管理水準： 登山道グレード3 ・ 登山道の保全対策ランク **C・D**

現 状	望まれる状況（案）
①利用状況（歩道の位置づけ、重要性、利用実態 など） - ウペペサンケ山（糠平富士・最高地点・西ピーク）への登山道。 - 高山植物やナキウサギ・ホシガラス等の野生動植物の生息地として貴重な地域。 - 登山道の利用者は200人程度。平成28年の台風被害による林道崩壊までは500人程度（いずれも登山口入林届をもとに算出）。 - 登山口から糠平富士（稜線部）まで約1,000mの標高差があり、登山道から、森林帯、亜高山帯、ハイマツ帯、高山帯までの植生の垂直分布を見ることができる。	- 糠平からの日帰り登山コースとして、原生的な山岳景観、豊かな自然環境、生物多様性を維持しながら、国立公園にふさわしい質の高い登山体験が可能となっている。 - 初心者コースである天保山と、上級者コースであるニペソツ山・石狩連峰の中間的な位置づけとして、ハイグレードな登山道に挑戦する前の準備的な山となっている。 - 登山道が、糠平をはじめとする地域にとって愛着のある山であるとともに、重要な観光資源の基盤の一つとして位置づけられ、山麓地域における滞在利用、地域活性化にも結びついている。
②課題（自然環境・景観上の問題・歩道の荒廃状況、安全対策など） - 標高約1,400mまでの森林帯においては、一部において登山道の泥濘化や侵食が進んでおり、これらを回避するための登山道の拡張が見られる。なお、令和2年度に、NPO法人かむいによる倒木処理が実施されており、倒木による大きな支障は無い。 - 標高約1,400m以上の登山道区間においては、ササを中心に、カエデ、ナナカマド等も繁茂が進行し、進行方向や足元の段差が見えない、伸張した枝葉が目に入る、といった危険性も見られる。なお、約1,500m付近までは、令和2年度に、NPO法人かむいによるササ刈りや倒木処理が実施されており、状況が大きく改善されている。 - 標高約1,600m以上の稜線部でも、ハイマツやハンノキの繁茂が進行しており、足元が見えない箇所も散見される。	- 登山道の全区間における対策の優先順位、優先箇所の整理が行われ、関係者間で課題に対する共通認識が確保されている。 - 保全対策ランク（C・D）に応じた、適切な植生保護、登山道補修、維持管理が計画的に進められている。

別紙 「登山道荒廃等の課題事例」(2/2)

歩道名：歩道名：糠平ウペペサンケ山線歩道 （距離 約6.5km（＋林道4.8km））

登山道管理水準： 登山道グレード3 ・ 登山道の保全対策ランク C・D

現 状	望まれる状況（案）
③管理状況（整備・維持管理の状況、担い手、補修計画 など） - 登山道施設としての構造物や工作物はほとんど設置されていない。 - 登山者によるゴミやトイレ道も、ほとんど見られない。 - 案内看板や標識もほぼ設置されておらず、糠平富士や最高地点に簡素な木製看板が置かれている程度。菅野温泉との分岐にある標識は、板が外れており、誤った方向に誘導するおそれもあり。 - 過去には、枝はらい等の簡易的な管理が実施されて様子もみられるが、近年は管理が停滞している状況。 - 令和2年度に、標高約1,500m付近までNPO法人かむいによる倒木処理やササ刈りが行われ、処理後の倒木を簡易階段等として使用。	- 他地域で設置されている登山道管理を目的とする協議会等の組織が設置されている。 - 歩道事業執行者として管理主体が明確になり、その上で関係機関、団体等による管理作業の役割分担が行われている。 - 毎年の継続した登山道維持管理を通じて、予算や担い手の育成が確保されている。
④予算等（関係する協力金、募金、支援事業、ボランティア活動等） 環境省や民間からの補助事業、ボランティア等自主活動（NPO法人かむい）	他地域で導入している登山者等からの協力金等も参考にしつつ、継続的な登山道補修及び維持管理を実施する。
⑤その他（トイレ、携帯トイレ、野営指定地等の課題） トイレや携帯トイレブース、野営指定地はなく、回収ボックスもなし。公衆トイレとしては、ひがし大雪自然館に隣接した県営駐車場付帯トイレが最寄り。	- トイレ道が作られることなく、野外し尿問題のない山として維持する。 - 林道も含めると、往復10時間程度かかる山行であることから、糠平等における携帯トイレの普及に努める。

☆検討事項（案）

- ・・・一部において登山道の泥濘化・侵食の進行や登山道の拡張、また、植生の繁茂が進んでいる一方、登山道維持管理の実施体制が構築されていないことや、利用者数が年間300人にも満たない等の理由から、対策の優先順位が上がっていない現状に対し、どのように課題解決の糸口を見い出せるか。また、登山者の安全も考慮した案内看板や標識は必要ないか。
- ・・・必要とされる維持管理箇所が登山口から遠く、現場の資材も乏しい条件にある中、補修作業に多くのに費用や労力がかかることについて、新たにどのような協力体制や協働の仕組みを検討できるか。
- ・・・登山の利用形態が日帰り利用が主となっていることもあり、地域における観光資源化や消費額の向上につながりにくい状況に対して、どのような改善策を検討できるか。



大雪山国立公園連絡協議会

○令和3年5月 大雪山国立公園連絡協議会 総会

- ・令和2年度事業・会計報告及び令和3年度事業・予算の承認
- ・表／東大雪地域登山道維持管理部会の構成員4団体が総会へ出席
表大雪地域・・・NPO法人大雪山自然学校、山樂舎Bear
東大雪地域・・・新得山岳会、大雪山国立公園パークボランティア連絡会
- ・大雪山国立公園の管理有効性評価の調査について（資料2-2-1）

○大雪山国立公園管理運営計画作業部会

- ・令和2年12月第1回部会、令和3年2月第2回部会開催。管理運営計画素案・案の検討
- ・令和3年秋頃 第3回部会。調整済みの大雪山国立公園管理運営計画案の確認

○大雪山国立公園協力金等検討作業部会

- ・令和2年11月第1回部会、令和3年2月第2回部会開催。取組方針案の検討
- ・令和3年夏～秋頃 第3回部会。取組方針案の決定
- ・取組方針に基づく、モデル地域における実践

協議会、各部会に関する全ての資料・議事概要は、大雪山国立公園連絡協議会ホームページに掲載

<http://www.daisetsuzan.or.jp/management/>

表／東大雪地域登山道維持管理部会

【目的】

- 登山道等の維持管理活動に関する総合調整、合意形成
(大雪山国立公園連絡協議会のうち、登山道の課題解決に関する部分の取組を実施)

【構成員】

- ・関係行政機関（環境省、森林管理署、北海道、市町）
- ・維持管理関係団体、利用（山岳会、ガイド事業者）・環境教育関係団体
- ・自然保護関係団体
- ・調査・研究関係
- ※オブザーバー（傍聴、情報共有）も部会に出席

構成員は大雪山国立公園連絡協議会に出席し、事業を報告

■事務局
環境省（業務の一部民間団体請負も想定）

【予算】

- 当面の間、大雪山国立公園連絡協議会の会計から必要な事項を支出

【取組】

- 構成員間の情報交換
- 登山情報の一元的な発信
- 歩道等維持管理実施手順マニュアルに基づく関係者間の調整、作業結果の検討
- 人材育成（セミナー、ボランティア受入）、技術の蓄積と伝承
- 登山道等維持管理の適正化に向けた議論（歩道事業未執行区間の解消）
- 施設の老朽化対策 等

○令和3年6月 表／東大雪地域登山道維持管理部会（第2回）を開催

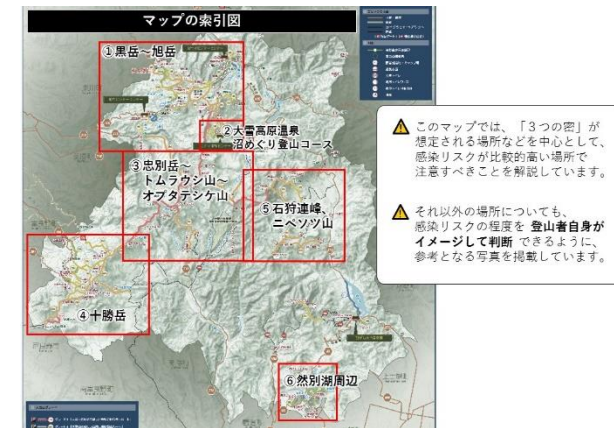
1.登山道の一元的な情報発信

(1) 新型コロナウイルス感染症注意マップの継続

○登山をする場合は、登山中に「他人に感染させる」「自分が感染する」ことのリスクを登山者ひとりひとりが認識して、自己の責任において対策・対応することが必要。

⇒登山者が自らが「3密」を回避して行動するため注意すべきことをまとめたマップを作成

令和3年6月14日版 http://www.daisetsuzan.or.jp/wp-content/uploads/2020/07/covid-19map_210614.pdf



(2) 登山道の一元的な情報発信に関する情報提供について

- 4月に大連協ホームページおよび登山情報をリニューアル
- 昨年に引き続き、情報提供を構成団体に要請
- 提供された情報は担当者がホームページにアップロード
- 情報の重要/緊急度により、大連協フェイスブック経由で拡散

<大雪山国立公園登山道・自然情報・情報提供フォーマット>

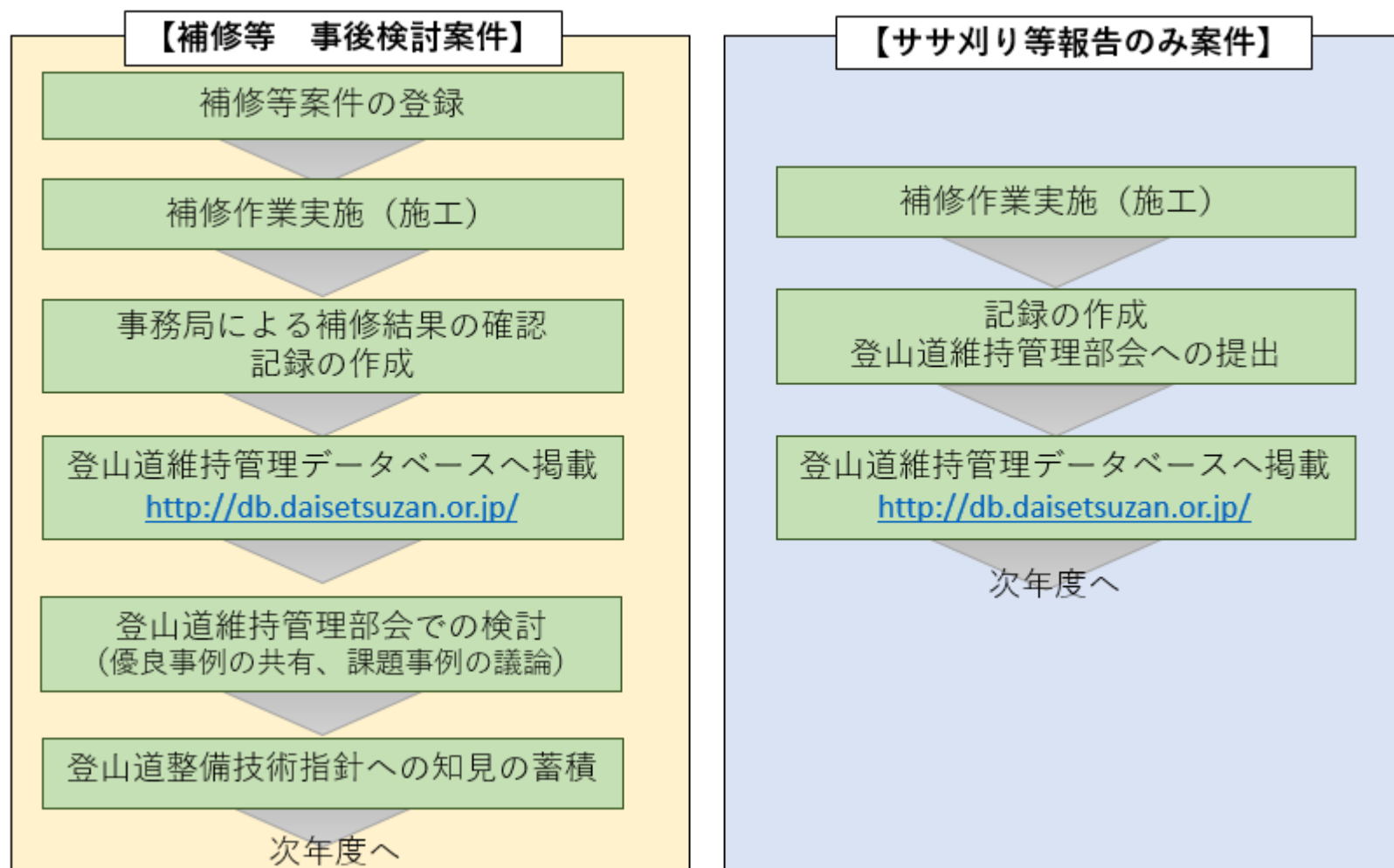
・情報の種類 【登山道情報/自然情報/その他】	
・タイトル	
・日付	
・山城/場所	
・内容 (現場の状況写真(別添で送付)や情報元HPのリンク先貼付など、)	
・登山者へのメッセージ (必要に応じて記載して下さい)	
・情報提供元	

<記載する上での留意事項>

- ・現地の状況(事実)を適切に記載して下さい
- ・事実を通じて登山者自らが気づきを促すことを重視して下さい

2.登山道維持管理維持管理作業実施手順マニュアル

概要・・・大雪山国立公園における登山道の適切な管理のため、補修案件について情報の共有（情報公開）、技術の検討、事例の蓄積を行い、補修・施工品質の確保・向上を図るもの。



3.登山道維持管理データベース

令和2年度から記録掲載を行っている登山道維持管理データベース <http://db.daisetsuzan.or.jp/> について、今年度も施工者からの情報を基に補修記録を作成し、掲載を行う。掲載については補修箇所、補修記録・写真のほか動画による公開を行う。

データベースのメリット

- 記録の蓄積が可能（経年の比較が可能となり、PDCAサイクルの状況も把握可能）
- 登山道の補修結果を登山道関係者で共有して検証が可能
- 維持管理作業の技術的な品質の確保と向上を図ることかできる
- 周辺の植生変化の蓄積が可能

情報提供により 登山道補修記録の作成（資料2-1-3）

事務局で記録報告をまとめ作成を行うが、請負業務の場合は実施者が作成（写真・動画の提供を受けることとするが、事務局が直接現場確認を行った際には写真・動画を撮影）

The composite image illustrates the process of creating and posting trail repair records. It includes a screenshot of the database website, a topographic map of the trail area, and three photographs of repair work with explanatory text.

Website Screenshot: db.daisetsuzan.or.jp/root-3-8/

路線番号: 3-8 始点: 43.661124,142.832743
路線管理者: 北海道 終点: 43.66211,142.825594

Map: A topographic map showing the trail route (orange line) and surrounding terrain. Key locations marked include 大池 (Great Pond), 姿見の池 (Sugami no Pond), and 旭岳石室 (Asahi Gaku Ishimura). Elevation points like 1627 and 1608 are also indicated.

Photographs and Explanations:

- 下部からの撮影 (Shooting from below):** A photo showing a stream (水流) and a snow pile (雪圧).
 - 木根土留めの下が水流により土壌が揺れて、雪圧により木根が倒れ、押さえていた土壌が流出する恐れがあった。
- Repair work:** A photo showing the repair of a wooden post and beam structure.
 - 既存の木根と鉄杭を撤去し、近くの湧きから運搬した石材を利用して、石積みによる土留めを設置した。
- Final repair:** A photo showing the completed stone wall repair.
 - 水流による侵食が及びそうな場合や、石組みが壊れなど施工後のチェックが重要であり、問題が起きた場合すくに対応する必要がある。

補修記録をまとめ、データベースに掲載

大雪山国立公園の登山道の荒廃問題を解決を目指す

4.大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言に関する取組

(1) 携帯トイレ普及キャンペーン

携帯トイレを普及させるためには、抵抗感をなく利用してもらうことが必要と考えられる。

そのため、中岳温泉、銀泉台～赤岳において、携帯トイレブースを設置して実際に利用してもらうこと、携帯トイレブースがない場所での安心な利用方法を検討して発信することなどにより、携帯トイレ普及に加え、し尿排出を抑える直接的な効果があるキャンペーンを実施する。また、携帯トイレ回収ボックスの追加設置を各地域で促すほか、トムラウシ短縮登山口では携帯トイレ配布ボックスを設置し、あわせて協力金の回収を試行する。

- ・ 中岳温泉（予定：令和3年7月17日～30日、9月8日～10月1日）
- ・ 銀泉台～赤岳（予定：令和3年9月中旬～下旬 ※マイカー規制時期）



携帯トイレ配布ボックス（イメージ）

(2) 携帯トイレ民間流通体制の支援、携帯トイレ普及パートナーの拡大

大雪山携帯トイレ普及宣言を促進するための大雪山国立公園オリジナル携帯トイレの民間事業者による一括受注支援、パートナーシップ事業の拡大を引き続き行う。

別紙2-1-4パートナー登録用紙 別添2-1-5りんゆうのご案内 別添2-1-6大雪山国立公園におけるトイレの現状を参照

(3) 携帯トイレ普及目標に応じた効果検証の試行

普及宣言に基づく取組を一層推進するため、普及宣言の内容に応じた、目標（可能であれば数値で定めることができるものとする）の達成状況について、携帯トイレ回収数のカウントや登山口でのアンケートなどできるだけ検証可能な情報を収集し、普及宣言の効果を検証する取組を試行する。



別添2-1-7_大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言目標設定、効果検証 参照

令和3年6月17日

表大雪／東大雪地域登山道維持管理部会
構成員・オブザーバー 各位

大雪山国立公園連絡協議会
北海道大学大学院農学研究院

大雪山国立公園の保護と管理に関する意識調査のお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃より、当方の研究・教育へご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

大雪山国立公園連絡協議会では、将来の大雪山の目指す姿を定めた大雪山ビジョンにおいて、協働による管理運営すすめるための取り組みとして、国際的な保護地域の評価手法である「管理有効性評価」の実施をあげております。管理有効性評価は国際自然保護連合が提唱し、世界銀行などが手法を開発したもので、生物多様性条約の成果を検証する指標の一つともなっています。我が国では、環境省国立公園課により、2018年より評価シートが作成され、国内数カ所の国立公園で評価が試行されています。

現段階の評価は、管理者自身と専門家が中心です。他国では地域の利害関係者とのワークショップや意見聴取を取り入れている例も少なくありません。今回の調査は、管理有効性評価を改善し、進展させるため、大雪山ビジョンへの取り組みを評価するため、地域の関係者の皆様を対象に、将来と現状の課題、管理運営の問題点、協働型の取組へのご意見などについて伺うものです。評価結果は、大雪山国立公園連絡協議会や各部会で報告させていただき管理運営計画の策定に活用します。また、学術雑誌等に投稿し、国際的な管理有効性評価の手法の改善にも寄与するものと考えています。

お忙しいところとは思いますが、皆様のご回答をお寄せくださいますようお願いいたします。いただいたご回答は、分野ごとに取りまとめて分析し、個々の所属とお答えをそのまま公開し、分析することはありません。また所属される機関や企業、団体を代表する意見として扱うこともございません。そのため、各団体で複数のご回答をいただいても構いません。

ご回答は、あくまでも任意です。インターネットの回答サイトへの入力、郵送による調査用紙へのご回答を選択いただけます。下記の要領で、ご案内いたします。郵送を希望される場合は、協議会事務局までご連絡ください。

記

【調査期間】2021年7月末日まで

【Web アンケートをご希望の場合】

下のURLにアクセスの上、アンケートへの回答をお願い申し上げます。PC、タブレット、スマホがご使用いただけます。2次元バーコード画像も添付します。

<https://arcg.is/enGGv>



【調査用紙への記入をご希望の場合】

ご所属団体、ご担当者氏名及びご希望部数を協議会事務局までお知らせください。
後日、調査用紙と料金受け取り人払いの返信用封筒を送付いたします。北海道大学に
住所をお知らせし直接送付しても良い場合はその旨をお知らせください。

以上

アンケート内容、回答サイトにお問い合わせは、下記にお願いいたします。

北海道大学大学院農学研究院 愛甲哲也
電話・FAX 011-706-2452
メール tetsu@res.agr.hokudai.ac.jp

その他、調査用紙の郵送をご希望の方は、下記にお願いいたします。

【大雪山国立公園連絡協議会事務局】

大雪山国立公園管理事務所 畠山 直樹
電話 01658-2-2574 FAX 01658-2-2681
メール NAOKI_HATAKEYAMA@env.go.jp

東川管理官事務所 齋藤 明光
電話 0166-82-2527 FAX 0166-82-5086
メール AKANE_SAITO@env.go.jp

上士幌管理官事務所 齋藤 佑介
電話 01564-2-3337 FAX 01564-2-2933
メール YUSUKE_SAITO@env.go.jp

大雪山国立公園の保護と管理についてご意見をお聞かせ下さい

大雪山国立公園の現状や、ビジョンを実現する取り組みなどについて、将来と現状の課題、管理運営の問題点、協働型の取組へのご意見などについて伺うものです。

いただいたご回答は、分野ごとに取りまとめて分析し、個々の所属とお答えをそのまま公開し、分析することはありません。また所属される機関や企業、団体を代表する意見として扱うこともございません。

大雪山国立公園連絡協議会・北海道大学大学院農学研究院
調査実施・問い合わせ先：北大農学研究院 愛甲哲也 閻安
〒060-8589 札幌市北区北 9 条西 9 丁目 電話：011-706-2452
メールアドレス：tetsu@res.agr.hokudai.ac.jp

問 1 あなたは、大雪山国立公園における現状の風致景観、地形・地質・自然現象、植生及び野生生物、文化資源の保全の取り組みは、適切に行われていると思われますか。それぞれ当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

	適切ではない	あまり適切ではない	どちらともいえない	ほぼ適切である	適切である	わからない
風致景観の保全	1	2	3	4	5	6
雄大で原生的な自然景観						
地形・地質・自然現象の保全						
火山活動起因する地形や寒冷地の地形・地質現象	1	2	3	4	5	6
植生及び野生生物の保全						
標高の変化に応じる植生の変化、多様な野生動物、特に絶滅危惧種、固有種など	1	2	3	4	5	6
文化資源の保全						
アイヌ文化、産業遺産、大雪山に関する文学や芸術作品など	1	2	3	4	5	6

問 2 あなたは、大雪山国立公園を保全しつつ適正な利用を図る上で、現状で問題となっていると感じる点がありますか。以下の項目について、当てはまる番号 全て に○をつけてください。

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------|
| 1 人の踏み付けによる登山道や散策路の荒廃 | 2 登山道や散策路の整備 |
| 3 登山者の増加に伴う登山道の混雑 | 4 駐車場の混雑や観光道路の渋滞 |
| 5 観光客による観光拠点（温泉や展望台、ビジターセンター等）の混雑、渋滞 | |
| 6 野営地の利用に伴う裸地化 | 7 トイレのない野営場、登山道のし尿問題 |
| 8 ゴミの放置、散乱 | 9 植物の違法採取 |
| 10 外来生物の侵入 | 11 エゾシカによる植生被害 |
| 12 ヒグマによる人への危害 | 13 公園内の規制やルールの管理不足 |
| 14 標識・地図の不備・破損 | 15 施設（トイレ、山小屋等）の不足または老朽化 |
| 16 建築物の廃屋の増加 | 17 開発行為（観光道路、ダム建設、鉱業採掘等） |
| 18 新型コロナウイルス感染症の拡大 | 19 地球温暖化による気候変動 |
| 20 その他（ | ） |

問3 あなたは、大雪山国立公園を保全しつつ適正な利用を図る上で、将来的に問題になると懸念される点はありますか。以下の項目について、当てはまる番号全てに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------|
| 1 人の踏み付けによる登山道や散策路の荒廃 | 2 登山道や散策路の整備 |
| 3 登山者の増加に伴う登山道の混雑 | 4 駐車場の混雑や観光道路の渋滞 |
| 5 観光客による観光拠点（温泉や展望台、ビジターセンター等）の混雑、渋滞 | |
| 6 野営地の利用に伴う裸地化 | 7 トイレのない野営場、登山道のし尿問題 |
| 8 ゴミの放置、散乱 | 9 植物の違法採取 |
| 10 外来生物の侵入 | 11 エゾシカによる植生被害 |
| 12 ヒグマによる人への危害 | 13 公園内の規制やルールの管理不足 |
| 14 標識・地図の不備・破損 | 15 施設（トイレ、山小屋等）の不足または老朽化 |
| 16 建築物の廃屋の増加 | 17 開発行為（観光道路、ダム建設、鉱業採掘等） |
| 18 新型コロナウイルス感染症の拡大 | 19 地球温暖化による気候変動 |
| 20 その他（ | ） |

問4 あなたは、大雪山国立公園における、自然の保護や施設の維持管理は、適切に行われていると思いますか。それぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

	適切ではない	あまり適切ではない	どちらともいえない	ほぼ適切である	適切である	わからない
登山道や歩道の維持管理	1	2	3	4	5	6
山小屋や野営地の維持管理	1	2	3	4	5	6
植生復元事業	1	2	3	4	5	6
公園内の巡視（登山道、野営場など）	1	2	3	4	5	6
公園内の清掃	1	2	3	4	5	6
外来生物の除去作業	1	2	3	4	5	6
携帯トイレ利用の推進・普及	1	2	3	4	5	6
公園利用マナーの徹底	1	2	3	4	5	6

問5 あなたは、大雪山国立公園における、利用者のための施設の設置・整備は、適切に行われていると思いますか。それぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

	適切ではない	あまり適切ではない	どちらともいえない	ほぼ適切である	適切である	わからない
登山道、歩道の整備	1	2	3	4	5	6
山小屋の整備	1	2	3	4	5	6
野営場及び関連施設の整備（広場等）	1	2	3	4	5	6
トイレの整備	1	2	3	4	5	6
登山口の駐車場の整備	1	2	3	4	5	6
ロープウェイやリフトの整備	1	2	3	4	5	6
道路や公共交通機関の整備	1	2	3	4	5	6
温泉街や宿泊施設の整備	1	2	3	4	5	6
標識・案内板の整備	1	2	3	4	5	6
ビジターセンターの整備	1	2	3	4	5	6

問 6 あなたは、大雪山国立公園における、利用者のためのサービスの提供は、適切に行われていると思いますか。それぞれ当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

	適切ではない	あまり適切ではない	どちらともいえない	ほぼ適切である	適切である	わからない
利用者の安全対策 (注意喚起、情報提供など)	1	2	3	4	5	6
公園の管理目標に沿った普及啓発の実施 (自然解説、パンフレット)	1	2	3	4	5	6
利用者のニーズに対応したツアー・プログラムの提供	1	2	3	4	5	6
外国人観光客の受け入れ環境整備 (掲示板、パンフレット、Web 等の多言語化、 ビジターセンターの多言語対応)	1	2	3	4	5	6
利用施設の新型コロナウイルス感染症への対応	1	2	3	4	5	6

問 7 あなたは、大雪山国立公園における公園計画や管理計画、ルールに基づく規制や指導は、どのくらい適切に行われていると思いますか。それぞれ当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

	適切ではない	あまり適切ではない	どちらともいえない	ほぼ適切である	適切である	わからない
公園の保護規制計画による建築物の設置 や開発行為	1	2	3	4	5	6
公園の保護規制計画による動植物の捕獲・ 採取などの行為	1	2	3	4	5	6
車馬・動力船の使用や、航空機の着陸	1	2	3	4	5	6
高原温泉・銀泉台、層雲峡における マイカー規制	1	2	3	4	5	6
冬季のスノーモビル乗り入れ	1	2	3	4	5	6
登山道での自転車等の乗入れ	1	2	3	4	5	6
野営場及び野営指定地以外での野営	1	2	3	4	5	6
植生保護のための歩道外への立入り	1	2	3	4	5	6
残雪時の雪渓上でのスキー利用	1	2	3	4	5	6
山岳地帯へのペット類の持ち込み	1	2	3	4	5	6

問 8 あなたは、大連協をはじめとした協議会や部会の運営について、どのように思いますか。それぞれ当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

	そう 思 わ ない	あ ま り そ う 思 わ ない	ど ち ら と も い え ない	や や そ う 思 う	そ う 思 う	わ か ら ない
幅広い分野の関係者が参加している	1	2	3	4	5	6
協議会、部会の開催頻度は適切である	1	2	3	4	5	6
会議時間の長さは適切である	1	2	3	4	5	6
会議は発言しやすい雰囲気である	1	2	3	4	5	6
一人当たりの発言時間は十分である	1	2	3	4	5	6
協議会、部会の開催会場へのアクセスが良い	1	2	3	4	5	6
現地にいなくても会議に参加する機会がある (オンライン)	1	2	3	4	5	6
関係者の提案や意見が、各種計画書などに反映されている	1	2	3	4	5	6
関係者の提案や意見が、関係機関や団体などの施策や取り組みに反映されている	1	2	3	4	5	6
協議会で討論された重要な課題について迅速に対応できている	1	2	3	4	5	6
公園での様々な事業に関係者が参加する機会がある	1	2	3	4	5	6
関係者の意見を取り入れる体制が常に確保されている	1	2	3	4	5	6
管理運営状況に関する情報は一般向けにも公開されている（各種計画、調査データ、調査報告書等）	1	2	3	4	5	6
一般公開されている情報は理解しやすい	1	2	3	4	5	6
協働型管理運営を通してビジョン、保護管理目標を達成できる	1	2	3	4	5	6
協働型管理運営は地域振興（生活の質の向上、経済的な発展等）にも役立つ	1	2	3	4	5	6

問 9 協議会や部会の運営について、問 8 の項目の他に、気になる点があれば教えてください。

問 1 0 あなたの性別を教えてください。当てはまる番号 1 つに、○をつけてください。

1 : 男性

2 : 女性

3 : その他

問 1 1 あなたの年齢を教えてください。当てはまる記号 1 つに、○をつけてください。

ア : 2 0 代

イ : 3 0 代

ウ : 4 0 代

エ : 5 0 代

オ : 6 0 代

カ : 7 0 代以上

問 1 2 あなたは、大雪山国立公園で活動している以下の団体に所属していますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

1 : 国の行政機関

2 : 北海道の行政機関

3 : 市町村の行政機関

4 : 交通事業者

5 : 観光事業者

6 : 観光協会

7 : 山岳ガイド

8 : 自然公園指導員

9 : 市民団体

1 0 : 自然保護団体

1 1 : パークボランティア

1 2 : 山岳会

1 3 : 研究者

1 4 : その他 ()

問 1 3 あなたは、大雪山国立公園連絡協議会に所属していますか。

1 : 所属しています

2 : 所属していない

問 1 4 あなたは、大雪山国立公園にある登山道維持管理部会に所属していますか。

1 : 所属しています

2 : 所属していない

問 1 5 大雪山国立公園の保護や管理運営について、他に何かご意見がありましたらお書きください。

アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

大雪山国立公園における登山道の適切な管理のため、補修案件について情報の共有（情報公開）、技術の検討、事例の蓄積を行い、補修・施工品質の確保・向上を図るもの。

手順	①案件の登録 ・計画者から事務局に案件登録 ⇒A4で1/2ページ程度の様式を提出、または、電話等でも可（実施場所、課題状況、実施内容、工法の方方向性等） ・事務局担当職員が大雪山国立公園連絡協議会のホームページへ案件掲載
	②対象案件の判定 ・案件の内容に応じて、次の判定結果をそれぞれ計画者に伝える。 ③－１：事前検討案件、 ③－２：事後検討案件、 ③－３：報告のみの案件 ※事務局が、案件に応じて判断する。 ※ササ刈りの他、次の施工案件は「③－３報告のみ」とする。 ・ぬかるみ解消を目的とした木道の設置（掘削は必要最低限とする） ・腐朽した木道の張替え ・段差を２段以内追加する段差処理 ＜今後也要検討＞ 考え方としては、誰が行っても同じ結果となり、自然環境保全上問題が生じなさそうなものを報告のみ案件とする。 ※事前検討すべきと考えられるものについて、事務局で検討のうえ、WGメンバーの意見を聞いて決定。
	③－１：事前検討案件 ・対象：これまでに対応事例のない荒廃や崩落等の案件 ・年間案件数：１～２件を想定 ■計画者に対して補修に関する作業計画書の作成を依頼（事務局担当職員） ■WGによる計画書の事前検討（事務局担当職員） ＜技術的助言の要請＞ ■計画者が施工方法について幅広い意見を得たい場合、作成した作業計画書について、WGメンバーに意見を求めることができることとする。 ・受付期間：シーズンオフ（10月～翌年５月） ・手順：計画者が作業計画書を作成して事務局に提出 事務局からWGメンバーに意見を照会（２週間程度） WGメンバーからの意見を計画者にフィードバックし作業計画書を修正 ■必要に応じ計画者が作業計画書を修正 ■計画者による作業の施工 ■事務局担当職員による作業結果報告書の作成 （請負業務の場合は計画者が業務で作成）
	③－２：事後検討案件 ・対象：「登山道整備技術指針」に基づき、施工内容の適正や妥当性を判断できる案件 ・年間件数：20件程度を想定 ■事務局による施工内容への助言 ⇒事前に自然環境保全上留意した方がよい点がある場合、不可逆な状況が生じないか等の観点から、案件登録の情報をもとに、必要な案件に対してコメントを行う ■事務局による施工結果の現場確認 ■事務局による記録報告作成（写真・文章＋動画） （請負業務の場合は計画者が業務で作成） ■事務局が、登山道維持管理部会における検討案件にするかどうかについて専門家の意見も踏まえ検討
	③－３：報告のみの案件 対象：登録時に判定された報告のみの案件 ■計画者が作業を実施 ■計画者が作業実施結果を、事務局に報告する（実施結果を簡潔にまとめた概要＋写真１枚程度）
	④－１：登山道維持管理部会での検討 対象：WGメンバー、部会構成員 ■事務局が、③－１及び③－２の案件の中から検討対象の重点案件を選定 ■計画者（施工者）が、案件の実施結果について報告 ■部会参加者で議論し、実施結果に対する改善事項等を整理 ■選定した重点案件以外の他の案件についても、改善点及び留意事項等があれば抽出 大雪山国立公園連絡協議会 登山道維持管理部会 (通常部会、技術検討会の開催) 登山道整備技術指針 運用・活用WG ○事務局 大雪山国立公園管理事務所
	④－２：作業結果の報告、共有 ■事務局担当職員が実施結果を大雪山国立公園連絡協議会ホームページに掲載 ■部会構成員等により情報共有
	⑤登山道整備技術指針の改訂に向けた知見の蓄積 ■各年における実施結果をもとに、技術指針の改定に必要な事項（特に施工の適切性に関する判断基準等）を蓄積 ■登山道維持管理データベースの充実

大雪山国立公園 登山道補修記録

路線名	層雲峡勇駒別線			担当者	Asahidake trail keeper・藤	
路線番号	3－9			作業日	2020年8月	
区間	姿見園地端部～旭岳登山口			記録日	2020年8月26日	
登山道管理水準					記録者	大雪山国立公園管理事務所 忠鉢
保全対策ランク	B	大雪山グレード	2			

目的

洗掘防止を兼ねたステップを施工する。

洗掘により土砂が流され、段差が拡大して歩きにくいため現地の石材と倒木を使用してステップを作る。
浸食がこれ以上広がらないように、みずみちにはプールと石組みを設置する。

浸食原因	荒廃タイプ	工法分類	使用材料
流水 ☒ 大雨 ☒ 雪解け水 ☐ 雨水（雨滴） 凍結融解現象等 ☐ 凍結融解（霜柱） ☐ 雪圧 ☐ 強風 登山者の踏圧等 ☐ 登山者 ☐ 既存施設 ☐ その他 ()	☐ ぬかるみ化 ☒ 水路化 ☐ ガリー化 ☐ 拡幅、複線化 ☐ 木道等 ☐ トラバース箇所 ☐ ヤブ化、倒木 ☒ 根系裸出 ☐ その他 ()	☐ 分散排水工法 ☒ 床止め工法 ☐ 土留め工法 ☐ マルチング工法 ☐ 路面処理工法 ☒ 段差処理工法 ☐ 植生基盤工法 ☐ 倒木処理 ☐ 刈り払い ☐ その他 ()	石材 現地採取 木材 現地採取(倒木)

位置図



GPS位置

N43.651572

E 142.82931

概要写真

< 補修前 >



< 補修後 >



様式第 1

大雪山国立公園携帯トイレ普及パートナー登録申請書

大雪山国立公園携帯トイレ普及パートナーシップ事業実施規約第 3 条に基づき、大雪山国立公園における携帯トイレの利用推進に係る取組（以下「取組」という。）の案を以下のとおり作成し、同パートナーシップの登録を申請します。

平成 年 月 日

団体等の住所、名称

代表者氏名

㊞

大雪山国立公園連絡協議会長 殿

すでに実施している取組の概要	
当年度末までに実施予定がある取組の概要	※ 2 月 1 日～ 3 月末日までの間に提案を行う場合は、翌年度末までの内容とする。
取組による効果の見込み	※ 可能な限り定量的に記載。
担当者氏名・連絡先	



「大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ」の販売に関するご案内

大雪山国立公園連絡協議会では、携帯トイレの普及を進めるため、平成29年度に「大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ」を作成しました。

平成30年度からは、大雪山国立公園携帯トイレ普及パートナー事業者である、株式会社りんゆう観光様に、大雪山地域を代表してメーカーからの仕入れを一括で実施していただいております。

このような体制を構築した理由は、携帯トイレを本格的にさせるためには、携帯トイレが登山装備品と同様に位置づけられること、また、携帯トイレの普及体制の継続性を確保する必要があり、民間の手によって自律的に流通することが重要であると考えためです。

つきましては、各関係団体・事業者のみなさまにおいて、「大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ」の仕入れ・購入を希望される場合は、下記窓口までご連絡ください。

また、販売いただける可能性のある団体・事業者に周知にご協力いただくとともに、販売の意向を持つ事業者があれば、下記連絡窓口まであわせてご一報をお願いいたします。

大雪山国立公園が抱える山岳地域のし尿問題解決のため、携帯トイレの販売に積極的なご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

大雪山国立公園オリジナル携帯トイレに関する連絡窓口

株式会社りんゆう観光 層雲峡事業所

〒078-1701 北海道上川郡上川町層雲峡

TEL. 01658-5-3031 FAX. 01658-5-3019

※価格（税込み）：1個360円（送料別途） ※最小販売単位：5個

【本状連絡先】大雪山国立公園連絡協議会事務局

環境省大雪山国立公園管理事務所

〒078-1741 北海道上川郡上川町中央町603 TEL：01658-2-2574/FAX：01658-2-2681

環境省東川管理官事務所

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15 TEL：0166-82-2527/FAX：0166-82-5086

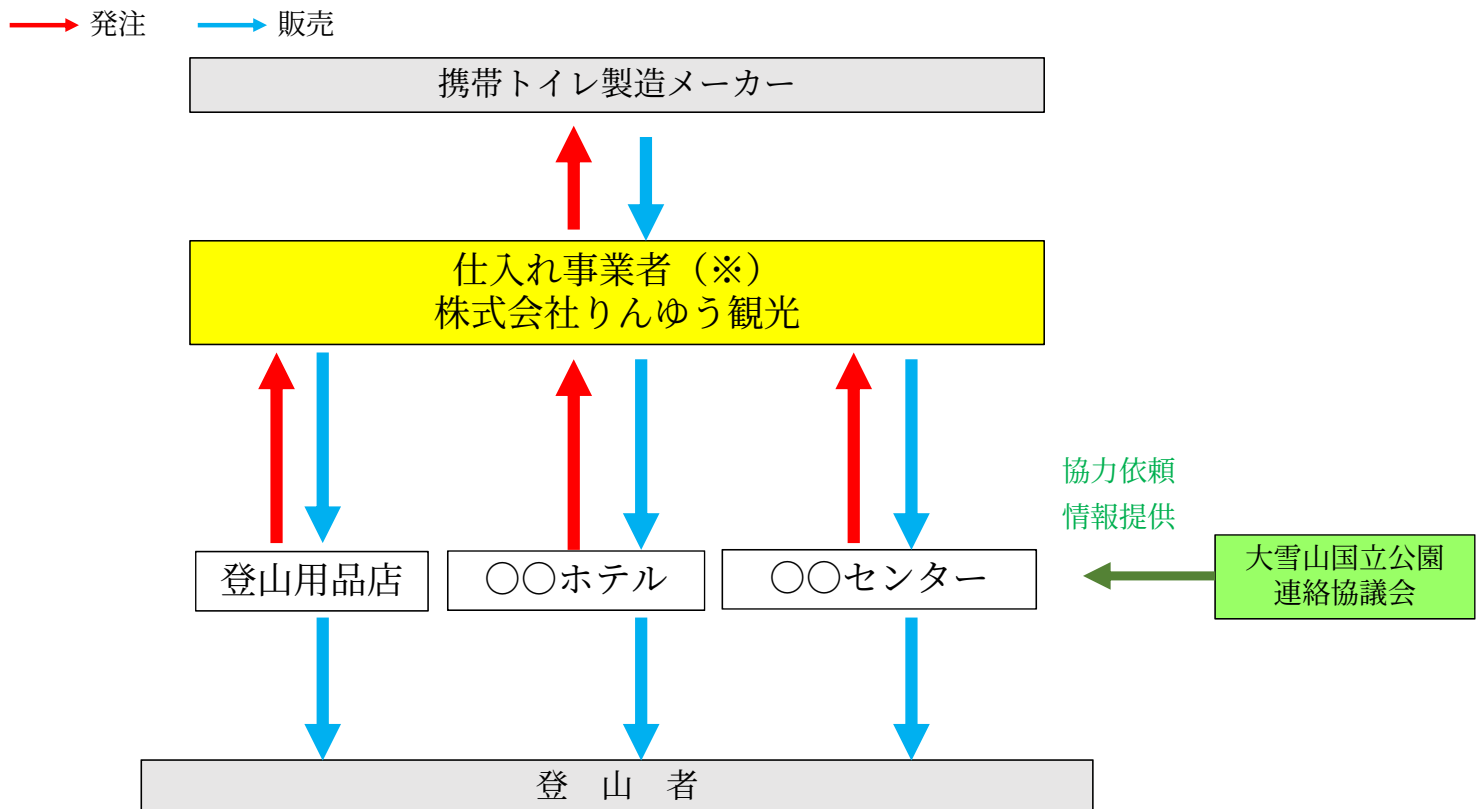
環境省上士幌管理官事務所

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33 TEL：01564-2-3337/FAX：01564-2-2933

大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ



大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ販売体制 (平成30年度～)



(※) 例えば、知床国立公園では安田商事株式会社様が、
屋久島国立公園では屋久島観光協会様が、仕入れ事業者となっています。

場所		市町	避難小屋・山小屋	野営場	トイレ	野外し尿の状況	携帯トイレブース	回収ボックス		携帯トイレ販売、その他備考	
山岳地	黒岳	上川	有 (管理人有)	有 (野営指定地)	有	少	有	—		—	新型コロナウイルス感染症対策として常設トイレのうち2ブースを携帯トイレ専用に変更。
	裏旭	東川	無	有 (野営指定地)	無	少	無	—		—	
	白雲岳	上川	有 (管理人有)	有 (野営指定地)	有	少	無	—		有	上川総合振興局、上川地区登山道維持管理連絡協議会、山のトイレを考える会で取組。
	大雪高原温泉沼めぐり登山コース エゾ沼、緑沼	上川	無	無	無	少	有	—		—	緑沼はテント式
	忠別岳	上川	有	有 (野営指定地)	有	無	無	—		—	
	ヒサゴ沼	新得	有	有 (野営指定地)	有	無	無	—		—	
	南沼	新得、美瑛	無	有 (野営指定地)	無	多	有	—		—	
	沼ノ原大沼	上川	無	有 (野営指定地)	無	未確認	無	—		—	
	ブヨ沼	上士幌、上川	無	有 (野営指定地)	無	無	無	—		—	
	小天狗のコル	上士幌	無	有 (野営指定地)	無	無	無	—		—	
	ニペソツ山前天狗	上士幌	無	有 (暫定的な野営指定地)	無	少	有	—		—	
	双子池	美瑛、新得	無	有 (野営指定地)	無	多	無	—		—	
	美瑛富士	美瑛、新得	有	有 (野営指定地)	無	多	有	—		—	
	十勝岳避難小屋	美瑛	有	無	無	少	無	—		—	
	上ホロカメットク	上富良野、新得	有	有 (野営指定地)	有	少	無	—		—	
登山口	赤岳	上川	無	無	無	少	有※	—		—	※9月中旬のみ、大雪山国立公園連絡協議会携帯トイレ普及キャンペーンとして設置
	中岳温泉	東川	無	無	無	少	有※	—		—	※7月中旬、9月中旬のみ、同上
	層雲峡	上川	無	有	有	無	無	有	設置は環境省、回収は上川町	有	○層雲峡ビジターセンター ○黒岳ロープウェイ売店、7合目売店 ○セイコーマート層雲峡店
	愛山溪温泉	上川	有	無	有	無	無	有	設置・回収は上川町	有	○愛山溪倶楽部
	銀泉台	上川	無	無	有	無	無	無		無	○マイカー規制シャトルバス発着場(9月中旬)
	大雪高原温泉	上川	有	無	有	無	無	有	設置は上川地区登山道維持管理連絡協議会、回収は上川町	有	○大雪高原山荘 ○ヒグマ情報センター ○マイカー規制シャトルバス発着場(9月下旬)
	姿見	東川	有	無	有	無	有	無		有	○旭岳ビジターセンター ○大雪山旭岳ロープウェイ(姿見駅売店) ○セイコーマート東川店
	旭岳温泉	東川	無	有	有	無	無	有	設置は振興局、回収は東川町	有	同上
	天人峡	美瑛	無	無	無	無	無	無		無	○セイコーマート東川店
	クチャンベツ	上川	無	無	有(仮設)	無	無	無			—
	美瑛富士登山口	美瑛	無	無	無	無	無	無		無	—
	白金温泉望岳台 歩道登山口(白金観光センター)	美瑛	無	有	有	無	無	有	回収は美瑛町	有	○ホテルパークヒルズ ○湯元白金観光温泉ホテル ○大雪山白金観光ホテル ○白金観光センター
	望岳台	美瑛	無	無	有	無	無	有	設置・回収は美瑛町	無	
	吹上温泉	上富良野	無	有	有	無	無	有	回収は上富良野町	有	○セブンイレブン 上富良野東町店 ○セイコーマート 上富良野宮町店 ○白銀荘
	十勝岳温泉	上富良野	無	無	有	無	無	有	回収は上富良野町	有	○十勝岳温泉凌雲閣
	原始ヶ原登山口	富良野	有	無	有	無	無	無		無	○ふらの観光協会
	シュナイダーコース登山口	上士幌	無	無	有(仮設)	無	無	無		無	
	ユニ石狩岳登山口	上士幌	無	無	無	無	無	無		無	
	トムラウシ温泉コース登山口	新得	無	有	有	無	無	有	設置は北海道、回収は新得町	有	○トムラウシ温泉東大雪荘 ○セイコーマート屈足店 ○セブンイレブン新得町南店
	トムラウシ短縮コース登山口	新得	無	無	有	無	無	有	設置は北海道、回収は新得町	有	同上
	十勝岳新得コース登山口	新得	無	無	無	無	無	無		無	
	ニペソツ山十六の沢コース登山口	上士幌	無	無	有(仮設)	無	無	有	設置は北海道、回収は上士幌町	無	
	ニペソツ山幌加温泉コース登山口	上士幌	無	無	有(仮設)	無	無	有	設置は北海道、回収は上士幌町	無	
	ウペペサンケ山登山口	上士幌	無	無	無	無	無	無		有	○ひがし大雪自然館 ○セイコーマートうえだ上士幌店
	天宝山登山口	上士幌	無	有	有	無	無	無		有	同上
	南ベトウトル山登山口	鹿追	無	無	有	無	無	無		無	
	白雲山然別湖側登山口	鹿追	無	無	有(仮設)	無	無	無		無	
	白雲山士幌側登山口	士幌	無	有	有	無	無	無		無	
	東ヌプカウシヌプリ登山口	鹿追	無	無	無	無	無	無		無	
	西ヌプカウシヌプリ登山口	鹿追	無	無	有	無	無	無		無	

大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言 目標設定、効果検証について

大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言の内容	宣言を実現するための取組事項 （目標設定、効果検証に係るもの）	活動実績（アウトプット）							成果実績（アウトカム）																					
		指標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	目標 （単位）	データ取得方法	参考事項	指標		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	目標 （単位）	データ取得方法	参考事項										
1. 携帯トイレを適切に使用することで雄大で原始的な景観と共存する登山を推進します。	○野営指定地等における野外し尿ゼロを目指す																			⑦主要箇所における、巡視等1回あたりの野外し尿排出痕跡数	美瑛富士 トムラウシ	3.7 7.0							元資料：美瑛富士は、美瑛富士携帯トイレブース点検パトロール報告書。トムラウシ南沼は、新得地区登山道等維持管理連絡協議会 山岳トイレ環境対策部会の資料から抽出できる巡視結果。 データ取得方法：美瑛富士は、美瑛富士トイレ管理連絡会ホームページを閲覧し、大雪山国立公園連絡協議会事務局でとりまとめ。トムラウシ南沼は、上士幌管理官事務所でとりまとめ。	・インターネットや会議資料などに掲載される等、根拠、再現性が確保される場合は、対象箇所を追加。
2. 登山者に快く携帯トイレを使ってもらえるような環境づくりを行います。	○携帯トイレブースの設置や維持管理	①携帯トイレブースの設置箇所数	9						元資料：大雪山国立公園連絡協議会事務局（環境省大雪山国立公園管理事務所）作成「大雪山国立公園におけるトイレの現状」 データ取得方法：大雪山国立公園連絡協議会事務局でとりまとめ。	・最大●箇所程度が適切と考えられる。	⑧携帯トイレブース使用回数	美瑛富士 トムラウシ 中岳温泉	203 1500 150						元資料：トムラウシ南沼は、新得地区登山道等維持管理連絡協議会 山岳トイレ環境対策部会の資料。 データ取得方法：ブース内に設置した手動カウンターにより計数。関係者による巡視等の際にカウント数を目視確認、記録。その場で記入できる記録表を鉛筆とセットで内壁に貼り付けておくのもよい。	・カウンターの誤作動を防止する工夫（数をリセットするためのツマミをテープで固定するなど）。										
	○携帯トイレの回収体制の構築	②携帯トイレ回収ボックスの設置箇所数	12						元資料：大雪山国立公園連絡協議会事務局（環境省大雪山国立公園管理事務所）作成「大雪山国立公園におけるトイレの現状」 データ取得方法：大雪山国立公園連絡協議会事務局でとりまとめ。	・大雪山国立公園の登山口は約30か所	⑦に同じ。																			
	○利用者向け情報発信	③大雪山国立公園連絡協議会facebook、登山情報における携帯トイレ関係記事の発信数	18						元資料：大雪山国立公園連絡協議会facebook<https://www.facebook.com/daisetsuzan/>、登山情報<http://www.daisetsuzan.or.jp/trail-news/> データ取得方法：大雪山国立公園連絡協議会事務局でとりまとめ。		⑦⑧⑨⑩⑪に同じ。																			
3. 登山者に対して携帯トイレの利用を推進するための呼びかけを行います。	○携帯トイレの持参の呼びかけ	④携帯トイレ普及キャンペーン実施箇所数	2						元資料：大雪山国立公園連絡協議会総会に提出される事業報告資料 データ取得方法：事業報告資料の参照	・大雪山国立公園連絡協議会以外の主体が実施するものについては、場所、内容、期間など定量的把握が困難であると考えられることから、⑤の携帯トイレ普及パートナー数を通じて間接的に把握。	⑨登山者の携帯トイレ持参率							元資料：各登山口における入林簿 データ取得方法：入林簿に、携帯トイレの持参の有無を聞く欄を設ける。入林簿の情報を大雪山国立公園連絡協議会事務局で入手し分析。	【森林管理署、南部森林室と要調整】 ・参考として、回答数をサンプルサイズとし、かつ、大雪山国立公園全体の登山者数を10万人とした場合の、信頼レベル95％における、携帯トイレ持参者数（許容誤差－～許容誤差＋人）を推計し記載。 https://lactivator.net/2019/04/04/sample_size/											
	○（常設トイレは適切に使用し、）携帯トイレは常設トイレがない箇所で使用。																			⑩下山者数あたりの使用済み携帯トイレ回収数	トムラウシ	0.33						元資料：トムラウシ南沼は、新得地区登山道等維持管理連絡協議会 山岳トイレ環境対策部会の資料。 データ取得方法：下山者数については、環境省が設置している登山者カウンターによる下山方向のカウント数。使用済み携帯トイレ回収数は、回収主体がとりまとめ（トムラウシ南沼は、新得町）。	・排尿、排便は生理現象であるため一定であると考えた上で、下山者数あたりの使用済みの携帯トイレ回収数により、登山中の全排尿、排便における携帯トイレの使用状況を把握するという趣旨（ただし、設置している登山者カウンターによる下山方向のカウント数。使用済み携帯トイレ回収数は、回収主体がとりまとめ（トムラウシ南沼は、新得町）。	
4. 携帯トイレの普及に協力してくれる人の輪を広げます。	○携帯トイレ普及パートナーの拡大	⑤携帯トイレ普及パートナー数	8						元資料：大雪山国立公園連絡協議会資料 データ取得方法：大雪山国立公園連絡協議会事務局でとりまとめ。		⑦⑧⑨⑩⑪に同じ。																			
	○携帯トイレ販売箇所数の拡大	⑥大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ卸数	2525						元資料：（株）りんゆう観光資料 データ取得方法：大雪山国立公園連絡協議会事務局から（株）りんゆう観光屋敷事業所に照会。		⑪登山用品店等における携帯トイレ販売箇所数		29						元資料：ヒアリング調査、出口調査結果 データ取得方法：大雪山国立公園連絡協議会事務局で調査を実施。山のトイレを考える会HPからデータ取得 http://www.yamatoilet.jp/i/yamatoilet.htm											

*1 カウンター数の誤差動があったと考えられるような回数があったため

令和3年6月
環境省 大雪山国立公園管理事務所
東川・上士幌管理官事務所

大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言の推進

○美瑛富士携帯トイレブースの運用



- ・美瑛富士携帯トイレブースの維持管理に関する協定書に基づき北海道地方環境事務所、美瑛町、美瑛富士トイレ管理連絡会の3者が協同で維持管理を行う。

○南沼汚名返上プロジェクト

- ・トムラウシ短縮登山口に携帯トイレ配布ボックスを設置。配布時に協力金の収受を試行予定。
- ・トムラウシ南沼野営指定地のテント数カウントや、同指定地周辺の野外し尿痕跡調査も継続実施予定。



○大雪高原温泉沼めぐり登山コース内の携帯トイレブースの常設化（ヒグマ監視等業務として実施）

大雪高原温泉沼めぐり登山コース
携帯トイレブース設置位置図

利用できる期間：9月18日（金）～シーズン終了まで

①緑沼携帯トイレブース



- テント型
- 緑沼での休憩後などに利用することがおすすめ。

②エゾ沼手前携帯トイレブース



- 小屋型で広く快適。
- 大雪沼で休憩・昼食後下山時に利用することがおすすめ。

【関連リンク】

大雪山国立公園
登山情報



マイカー規制
情報

シャトルバス残り人数

ヒグマ情報
センター



沼の名称

①土俵沼 ②パシウ沼 ③滝見沼 ④緑沼 ⑤池沼 ⑥大沼 ⑦エゾ沼 ⑧式部沼 ⑨大雪沼 ⑩高原沼 ⑪空沼

この地図の作成に当たっては、国土地理院の承諾を得て、同院発行の数値地図（国土地院基本情報）電子版（国土地院）を利用した。（測量法に基づく国土地理院承諾（使用）R 1.0h 1.21h）



松仙園登山道のぬかるみ対策

<ポイント>

○R 2 年度より供用開始（7/14～9/30）。昨年の利用者はおよそ1,000人

○植生を最大限保護するため、上り一方通行での利用ルールとしたが、湿原以外の区間で多数のぬかるみの発生を確認

→ 対策として、倒木を利用した木道、角材を使用した簡易木道の設置等を行う
（請負業務、大雪山P V 行事としても実施予定）

沼ノ平～姿見の池登山道の整備（予定）

<ポイント>

○愛山溪～当麻乗越の区間は、木道資材の劣化、踏圧侵食による土壌流出で荒廃が進んでいる

○過去、ヘリや人力での補修資材の運搬・工事が行われているが、コスト面から整備が追いついていない

○効率的な整備手法の調査、検討のため、R 2 年度の冬期間（3月下旬）において、スノーモビルによる補修資材の荷上げ実験を実施（目的：走行ルートの確立、整備手法の可能性を検索）

→ 実際に荷上げた補修資材で整備を行うとともに、冬期間はスノーモビルによる荷上げも実施することで、当該手法のより詳細な効果検証を行う

白雲岳避難小屋周辺登山道維持管理協力金

<ポイント>

○白雲岳避難小屋周辺登山道の利用者に対し1,000円の協力金をお願いする方針が大雪山国立公園上川地区登山道等維持管理連絡協議会総会で決定。

○この間協力金等検討作業部会では大雪山国立公園ビジョンを踏まえ、大雪山に見合った協力金の取組方針や利用者が国立公園の管理運営に参加する仕組みについて検討され、協力金の意義と使途、目指す目標、利用者に対する情報発信等について協議を行った上、白雲避難小屋管理人と確認のうえ実施に至る。

○協力者にはノベルティの配布と共にアンケートを実施し、そこから得られた知見を分析することで登山道の管理運営に対する大雪山国立公園内の協力金のあり方について分析を行う。

（グリーンワーカー事業）

- 清掃活動事業（層雲峡、勇駒別、天人峡、糠平、十勝三股の各集団施設地区等利用拠点の美化清掃）
- 高原温泉・銀泉台自動車利用適正化対策業務
- 沼ノ平湿原植生復元植生調査業務
- スノーモビル乗入れ対策（普及啓発看板設置、パトロール）（12月～3月予定）
- 大雪山国立公園野営指定地現状把握業務（R2年度未実施箇所、三川台）
- 大雪山国立公園登山道管理水準、登山道整備技術指針見直しに向けた予備調査（仮）
- 大雪山国立公園連絡協議会地域の連携体制強化事業（仮）
- トムラウシ山登山道泥濘対策検討業務
- ヒサゴ沼野営指定地環境改善検討業務
- 大雪山国立公園十勝三股地区植生管理手法検討業務

（国立公園満喫プロジェクト推進事業）

- 協力金取組方針作成及びモデル地域における協力金収受検討調査
- メディアを活用した広域情報発信業務

（自然ふれあい）

- パークボランティア活動（登山道維持管理、外来種対策、利用者指導、モニタリング等）
- 層雲峡ビジターセンター及びひがし大雪自然館を拠点とする自然観察講座

（野生生物の保護管理）

- 然別湖ウチダザリガニ対策事業及び希少水生生物（カラフトグアイ）保全対策業務
- 高原温泉ヒグマ情報センターの管理運営

※原生的な自然景観・生態系保全及び安全対策の充実と、体験の質・満足度の向上の両立

(施設整備・維持管理)

- 環境省が管理する、松仙園登山道（※）、沼ノ平～姿見の池登山道（※）、中岳温泉～間宮岳登山道（※）、沼ノ原木道及びトムラウシ登山道の巡視
- ※登山道維持管理データベースを活用した管理・補修
- 松仙園地区適正利用推進協議会の開催（1～3月）
- 層雲峡活性化・再整備に向けた検討、計画
- 多言語解説整備支援事業
- 大雪山縦走線歩道実施設計業務
- 中岳裾合平線歩道実施設計業務

(登山者カウンターの設置による登山道利用者数調査)

○環境省国立公園HPで公開中 <<https://www.env.go.jp/park/daisetsu/data/tozandoriyosya2016.html>>

令和2年度大雪山国立公園入山者数の推計結果（登山者カウンター等カウント値結果）

● 対象とする登山口
令和2年度は、下巻の登山口を対象とした。位置図は別紙のとおり。なお、現時点では利用者が少なく、登山者カウンターを設置して人数を計測しても、全体数の算算の範囲に含まれてしまうと考えられる登山口は対象にしていない。

● 結果の概要
①月別の入山者数は、最も多い月が9月、その次が7月であると考えられる。
②入山者が多い上位3登山口は、黒岳登山口、姿見の池（旭岳方面）、十勝岳温泉（安政火口）である。
なお、熱感知式カウンターの機能検証の結果から入山者数の推定はより精度の高いものと考えられる。令和2年度6月～10月期の大雪山国立公園の年間のカウント数を単純に合計した値について、これまでに実施した精度検証の結果から、仮に誤差が約110%～148%と仮定すると、大雪山国立公園全体の入山者数は約7～10万人程度の間にあると考えられる。

登山口	年間	6月	7月	8月	9月	10月	推計方法	カウンター設置期間
1 黒岳登山口	約22000程度	約1000程度	約5400程度	約5600程度	約8700程度	約2300程度	熱感知式カウンターからの推計	令和2年6月23日～10月12日
2 黒岳登山口（第一花巻下）	約7000程度	約200程度	約2800程度	約1300程度	約3600程度	—	熱感知式カウンターからの推計	令和2年6月23日～9月28日
3 黒岳温泉登山口（標高コース）	約3700程度	約200程度	約1400程度	約900程度	約1200程度	約100程度	熱感知式カウンターからの推計	令和2年6月18日～10月7日
4 黒岳温泉登山口（沼ノ平～姿見の池コース）	約3900程度	約100程度	約2300程度	約400程度	約2100程度	約900程度	ヒゲマ情報センター利用者数資料	—
5 十勝岳登山口	約3200程度	約90～90程度	約1200程度	約1100程度	約1200程度	約100程度	熱感知式カウンターからの推計	令和2年7月3日～10月7日
6 松仙園登山口	約1000程度	—	約200程度	約200程度	約800程度	—	人感センサー式カメラからの推計	令和2年7月14日～9月30日
7 黒岳温泉登山口	約2000程度	約90～90程度	約500程度	約400程度	約1000程度	約100程度	熱感知式カウンターからの推計	令和2年6月28日～10月9日
8 姿見の池（旭岳方面）	約6600程度	約200程度	約2800程度	約900程度	約2300程度	約400程度	熱感知式カウンターからの推計	令和2年6月19日～10月9日
9 姿見の池（旭岳方面）	約2100程度	約500程度	約3300程度	約2800程度	約7700程度	約700程度	熱感知式カウンターからの推計	令和2年6月19日～10月9日
10 黒岳温泉登山口	約1200程度	約200程度	約300程度	約400程度	約300程度	約90～90程度	熱感知式カウンターからの推計	令和2年5月29日～10月8日
11 天ノ岩登山口	約500程度	約90～90程度	約200程度	約100程度	約100程度	約40～60程度	人感センサー式カメラからの推計	令和2年6月19日～10月9日
12 十勝岳登山口（黒岳方面）	約2000程度	約200程度	約500程度	約400程度	約900程度	約90～90程度	熱感知式カウンターからの推計	令和2年5月29日～10月8日
13 十勝岳登山口（十勝岳方面）	約8800程度	約1200程度	約2400程度	約2600程度	約2100程度	約200程度	熱感知式カウンターからの推計	令和2年5月29日～10月8日
14 十勝岳温泉（安政火口）	約1200程度	約1100程度	約2500程度	約2900程度	約2800程度	約400程度	熱感知式カウンターからの推計	令和2年5月29日～10月8日
15 黒岳温泉登山口	約2000程度	—	約100程度	約50～100程度	—	—	人感センサー式カメラからの推計	令和2年5月29日～10月8日
16 十勝岳新集落登山口	約100程度	約90～90程度	約90～90程度	約90～90程度	約90～90程度	約50～100程度	国有林入林簿からの推計	—
17 トムラウシ山（黒岳コース）登山口	約2300程度	約90～90程度	約700程度	約900程度	約900程度	約50～100程度	赤外線式カウンターからの推計	令和2年5月28日～10月12日
18 トムラウシ山（黒岳コース）登山口	約100程度	約90～90程度	約90～90程度	約90～90程度	約90～90程度	約90～90程度	赤外線式カウンターからの推計	令和2年5月28日～10月12日
19 石狩岳登山口	約200程度	約90～90程度	約200程度	約40～60程度	約90～90程度	—	赤外線式カウンターからの推計	令和2年5月29日～10月18日
20 ニコノ山登山口	約50～100程度	—	—	約40～60程度	—	—	国有林入林簿からの推計	—
21 ニコノ山（黒岳温泉コース）登山口	約1100程度	約50～100程度	約400程度	約300程度	約300程度	約50～100程度	熱感知式カウンターからの推計	令和2年5月29日～10月14日
22 黒岳山麓登山口	約700程度	約100程度	約100程度	約100程度	約100程度	約200程度	国有林入林簿からの推計	—
23 黒岳山麓登山口	約2800程度	約300程度	約500程度	約600程度	約600程度	約800程度	国有林入林簿からの推計	—
24 黒岳山麓登山口	約1900程度	約200程度	約300程度	約400程度	約400程度	約600程度	国有林入林簿からの推計	—
25 南ベクトル山登山口	約300程度	約40～60程度	約90～90程度	約40～60程度	約50～100程度	約50～100程度	国有林入林簿からの推計	—

資料 2－2－2

十勝総合振興局保健環境部環境生活課 令和 3 年度活動予定

1 携帯トイレ配布ボックスの設置

トムラウシ南沼汚名返上プロジェクトの一環で、短縮登山口バイオトイレに携帯トイレ配布ボックスを設置し、登山者が協力金を支払うことで、現地で携帯トイレを入手できるようにする取り組み。

本来、令和 2 年度に設置予定だったが手続きがうまく進まなかったため、令和 3 年度に延期となった。

然別自然休養林保護管理協議会 令和3年度事業計画

然別自然休養林保護管理協議会は、然別湖周辺に広がる国有林の保護管理を目的とした団体です。

加盟団体

環境省上士幌自然保護官事務所・十勝西部森林管理署東大雪支署・十勝総合振興局・警察署・帯広建設管理部鹿追出張所・北海道ネイチャーセンター・ホテル風水・いわなや北海道電力・しほろ自然に親しむ会・拓殖バス・とかち鹿追ジオパーク推進協議会・上士幌町・士幌町・鹿追町（事務局）

今年度の活動予定

※NPO法人かむい様には、南ペトウトル及び西ヌプカウシヌプリの登山道整備（倒木除去及び草刈り）を実施していただき大変感謝しています）

○春季登山道整備（6月24日 白雲山天望山周回線）

○秋季登山道整備（日程未定 整備場所は適宜）



活動エリア

**2021（R3）年度 東大雪山地域登山道関連調査予定
北海道大学大学院地球環境科学研究院・環境科学院**

登山道に関連した調査の予定はありませんが、とち鹿追ジオパークに関連して、東大雪地域登山道維持管理部会メンバーらに対してアンケート調査の実施を予定しています。

とち鹿追ジオパークに関連した調査

【調査予定地】

鹿追町一帯

【目的】

- (1) とち鹿追ジオパークの価値の理解度などについて、鹿追町にかかわる東大雪地域登山道維持管理部会メンバーおよび登山道維持管理関係者、町内の小中高等学校の児童生徒、町民らの考えを把握する。
- (2) 町内の学校でかつて「新地球学」を受講した生徒と受講していない生徒の間で「新地球学」の効果の差を検証し、ジオパークが教育に対して持つ効果を明らかにする。
- (3) 町内のジオサイト周辺の整備状況を把握する（ドローンによる写真撮影を含む）。
- (4) 将来、地学・環境教育をいかに展開し、特にとち鹿追ジオパークにおける持続可能な開発のための環境教育とどのように結びつけるかについて考察する。

【調査期間】

2020 年 7 月～2021 年 3 月に数回

【調査者】

渡辺悌二（教授），向 世柔（修士課程大学院生），王 婷（博士課程大学院生），常 亮（博士研究員）

【方法】

- (1) 鹿追町にかかわる東大雪地域登山道維持管理部会メンバーおよび登山道維持管理関係者らへのアンケート調査・インタビュー調査をオンラインで実施
- (2) 町内の小中高等学校の児童生徒へのアンケート調査をオンライン等で実施
- (3) 町内のジオサイト周辺の整備・利用状況の把握（ドローンによる写真撮影を含む）

2021 年 大雪山国立公園における調査計画

北海道大学大学院農学研究院

花卉・緑地計画学研究室

准教授 愛甲哲也

1. 保護地域管理有効性評価の関係者調査（修士2年 閻安）

5月14日開催の大連協総会で承認された協議会および部会の構成員・関係者に対する、管理有効性に関する意識調査を6－7月にかけて実施する。調査依頼は、大連協事務局より発信予定。郵送での回答意向は大連協事務所に連絡をお願いします。



Web でのご回答 <https://arcg.is/enGGv>

2. 裾合平、雲の平のマット施工の効果検証（修士1年 陳絵）

2019年から行っているマット施工が行われた場所の植生の回復状況の調査を実施する。裾合平は6月中旬から9月中旬まで2週間ごと、雲の平・南沼は7月下旬に、現地での測量、植生調査、土壌水分等の計測を行う。裾合平では秋にチングルマの種子の採取を行い、実験室での発芽／生育状況の観察を行う。いずれも、環境省、北海道森林管理局、文化庁の許可済み。

3. COVID-19 による登山者の動態変化の比較（修士2年 八尋聡、修士1年 中村大）

2020年のカウンターデータ、携帯電話位置情報のビッグデータを用いて、主要登山口、宿泊地の登山者数を過年度と比較し、傾向の変化を分析する。昨年と同様に、過年度のカウンターデータを用いて、2021年の曜日の配列を考慮した主要登山口の混雑予想カレンダーの作成も行う。

4. リポートフォトグラフィーによる写真撮影、写真比較分析

過去の写真と同じ場所から写真を撮影して、景観の変化を比較する。昨年の層雲峡、天人峡温泉、姿見、旭岳温泉に加えて、登山道や十勝、東大雪での写真の収集、撮影を実施する。

昨年の調査結果は、下記をご覧ください。

<http://lab.agr.hokudai.ac.jp/hsla/aikoh/site/cocoen/index.html>

公益社団法人 日本山岳会北海道支部 2021 年度活動予定（自然保護関連）

①大雪山国立公園高山植物盗掘防止パトロール（道庁の委託事業）

○6 月～10 月上旬

○監視員に登録した支部の会員、会友 41 名が腕章を着用して随時パトロール実施

○目標は 1 名 3 日以上、100 日以上のパトロール

②美瑛富士避難小屋携帯トイレブースの清掃・点検活動

○トイレ管理連絡会持ち回りの活動で当支部は 7 月 25 日（日）が実施日

○7 月 24 日（土）～25 日（日）1 泊 2 日 支部メンバー 4～5 名で実施予定

③裏旭野営指定地でのアンケート活動

○裏旭野営指定携帯トイレ検討連絡会が実施する携帯トイレに関する一般登山者へのアンケート調査。

○当支部は 7 月中の土日に活動予定で現在、他の団体との日程を調整中。

（文責 支部長 藤木俊三）